

資料2: 東京都で実施されている主要フェスティバルの概要

		都民芸術フェスティバル (舞台芸術)	アジア舞台芸術祭 (舞台芸術)	六本木アートナイト	東京アートミーティング
開催概要	会期	2012年1月11日(水)～3月31日(土)／81日間	2012年12月1日(土)～2日(日)／2日間	2012年3月24日(土)10:00～3月25日(日)18:00	2012年10月27日(土)～2013年2月3日(日)
	会場	・音楽: 東京文化会館、東京オペラシティ コンサートホール、新国立劇場 ・演劇: 俳優座劇場、町田市民ホール、全労済ホール／スペース・ゼロ、紀伊國屋ホール ・バレエ・舞踊: 東京文化会館、ゆうぽうとホール、新国立劇場、府中の森芸術劇場 ・伝統芸能・民俗芸能等: 国立劇場、国立能楽堂、江戸東京博物館ホールほか	・東京芸術劇場 シアターウエスト	六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース	東京都現代美術館 企画展示室 1階、地下2階
	主催	・東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団【各公演主催団体】 社団法人日本演奏連盟、財団法人日本オペラ振興会、公益財団法人東京二期会、有限会社劇団俳優座、株式会社ヒューマンデザイン、有限会社ゴーチ・ブラザーズ、有限会社青年劇場、公益社団法人日本バレエ協会、スターダンサーズ・バレエ団、東京シティ・バレエ団、社団法人現代舞踊協会、邦楽連合会、社団法人日本舞踊協会、公益社団法人能楽協会、都民寄席実行委員会、東京都民俗芸能大会実行委員会、東京都生活文化局文化事業課	・アジア大都市ネットワーク21アジア舞台芸術祭組織委員会、アジア舞台芸術祭実行委員会(構成団体: 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人東京観光財団)、豊島区※ ※舞台芸術国際共同制作人材育成事業「APAFアートキャンプ」	東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合】	東京都、東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京新聞
	共催	※各公演により異なる			
	協賛	※各公演により異なる		エリア協賛: サントリーウイスキー 響、協賛: 飯田電機工業株式会社、株式会社テー・オー・ダブリュー、株式会社東京タカラ商会、株式会社ヴァリアス・ディメンションズ、TSP太陽株式会社、ピーディーシー株式会社、アットホーム株式会社、株式会社イースト、株式会社オリコム、株式会社共立、株式会社クオラス、株式会社クラフト、五條製紙株式会社、株式会社コングレ、有限会社笑遊堂、シンテイ警備株式会社、株式会社つむら工芸、株式会社トランジット ジェネラルオフィス、中村展設株式会社、富士急グループ株式会社フジエクスプレス、富士フイルム イメージングシステムズ株式会社、株式会社ブレインズアンドハーツ	NECディスプレイソリューションズ株式会社/ヤマハ株式会社/AURAL SONIC SHIZUKA STILNESS PANEL/株式会社オーディオテクニカ/株式会社バラッド/山口情報芸術センター[YCAM]/株式会社シンタックスジャパン/IASPIS
	助成	※平成23年度文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)、平成23年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業など、各公演により異なる	平成24年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ(※舞台芸術国際共同制作人材育成事業「APAFアートキャンプ」が対象)	平成23年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	芸術文化振興基金
	後援	※各公演により異なる		観光庁、港区、東京ミッドタウン町会、西麻布霞町町会、日ヶ窪親和会、竜士町会、六本木材木町町会、六本木町会、六本木ヒルズ自治会、六本木「Art & Designの街」推進会議、テレビ朝日、J-WAVE、TOKYO FM、インドネシア共和国大使館、駐日韓国大使館、韓国文化院、シンガポール共和国大使館、台北駐日経済文化代表処、チェコ共和国大使館、CZECH CENTRE TOKYO、チェコ美術評論家連盟、ドイツ連邦共和国大使館、東京ドイツ文化センター	
	事務局	【フェスティバル全体】東京都生活文化局文化振興部文化事業課、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 事業企画課	アジア舞台芸術祭制作オフィス	株式会社テー・オー・ダブリュー	東京都現代美術館

		都民芸術フェスティバル (舞台芸術)	アジア舞台芸術祭 (舞台芸術)	六本木アートナイト	東京アートミーティング
目的と概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都により1968年度に開始されて以来、現在まで毎年度実施されている、都民に芸術を身近に感じてもらうための舞台芸術の祭典</li> <li>都内に主たる活動拠点を置き、舞台芸術の創造活動を行っている芸術文化団体が企画・制作する優れた公演に対し、助成金や負担金を交付することで、公演内容の充実を図るとともに、入場料金を低廉に、あるいは入場無料とすることで、多くの都民にさまざまな舞台芸術を鑑賞してもらい、芸術のより一層の普及と振興を図ることを目的とする (2011年10月掲載、東京都報道発表資料を要約)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア大都市ネットワーク21の共同事業の一つとして、アジアの舞台芸術の紹介を通じ、相互理解と文化交流を促進するとともに、舞台芸術専門家等の相互交流を促し、舞台芸術の水準を高め、新しい表現の創造につなげることを目的とする</li> <li>優れた人材や舞台芸術作品を発掘するとともに、世界に流通させる市場を育成し、21世紀のアジアにおける芸術・文化の振興に貢献することを目指す (以上、公式サイトより要約・抜粋)</li> <li>フェスティバル・トーキョー2012の連携プログラムの一つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>六本木の街を舞台にした一夜限りのアートの饗宴、日没から日の出にかけて開催</li> <li>アート作品のみならず、音楽、映像、パフォーマンスなどを含む多様な作品を点在させ、六本木エリア全体を多様なアートで埋め尽くす</li> <li>来場した方に、普段とは違う六本木を感じる非日常的な体験を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代アートを中心に、デザイン、建築などの異なる表現ジャンル、およびその他の専門領域が会うことで、新しいアートの可能性を提示し、東京から発信する</li> <li>文化発信プロジェクトの中では、「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業とし、H22の報告書では「着実に地域的な広がりをみせた。事業運営を担う人材を育成する講座等を実施するなど、戦略的な取組ができています」と評価</li> </ul>
プログラム		<ul style="list-style-type: none"> <li>オーケストラ、室内楽、オペラ、現代演劇、バレエ、現代舞踊、邦楽、日本舞踊、能楽、寄席芸能、民俗芸能の11分野計33演目の公演を、都内21会場で実施</li> <li>どのジャンルでも、幅広い層が楽しめる作品から新作初演まで、多彩なプログラムが並ぶ</li> <li>伝統芸能では人間国宝を含む一流の舞手が一堂に会す公演がフェスティバルに参加</li> <li>寄席の定席がない地域へ落語や芸能を届けるという趣旨のもと、「都民寄席」を多摩地域の会場を中心に開催</li> <li>都内に伝承されている民俗芸能から、毎年テーマに沿った伝承団体が集い「東京都民俗芸能大会」を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「国際共同クリエイション公演」、②「国際共同制作ワークショップEXT」、③「APAFアートキャンプ(舞台芸術国際共同制作人材育成事業)」の3つから構成</li> <li>アジア各都市から若手アーティストが参加</li> <li>①国際共同コラボレーションによる作品の創作、上演</li> <li>②アジア発の新しい舞台芸術の創造を目指し、若手アーティストが交流、小作品を共同制作、成果を発表上演。東京からはオーディション合格者が参加</li> <li>③アーティストや専門家等の相互交流の場。次世代を担う人材が国際共同制作というフィールドで活躍できるきっかけづくりにつなげていく。受講者は公募。</li> <li>その他、アーティストによるネットワークづくりを目指し、「APAFアートキャンプ・ラウンドテーブル」を実施</li> </ul>	<p>2009年から始まり、第3回目となる六本木アートナイト2012のテーマは「アートでつくろう、日本の元気」。このテーマのもとに、国内外様々なアーティストが作品を展開し、例年よりメッセージ性の強い作品や、元気を与えるような作品が登場した。</p>	<p>2010年から始まり、各回、異なるジャンルと共同企画をしてきた 第一回目は、「トランスフォーメーション」のテーマで、アートと人類学を軸に、第二回は建築。第三回の「アートと音楽—新たな共感覚をもとめて」ではアートと音楽の密接な関係を、サウンドインスタレーションなどの表現を通して、新しい「共感覚」を提示。</p>
セレクション			<ul style="list-style-type: none"> <li>総合プロデューサー：宮城聰(1959年東京生まれ。演出家。1990年ク・ナカ旗揚げ、国際的な公演活動を展開。2007年からSPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督)</li> <li>国際共同制作ワークショップEXT参加者のオーディションの選考委員：宮城聰、江本純子(1978年千葉生まれ。2000年毛皮旗を旗揚げ以来、全公演を作・演出)</li> </ul>	<p>実行委員長 南條史生(森美術館館長) 特別顧問:安藤忠雄、森佳子 2012年は草間彌生をフィーチャー 2013年は 日比野克彦がアーティストックディレクター</p>	<p>第三回目の総合アドバイザー:坂本龍一 各回ごとにテーマと企画者を立てている (第一回中沢新一・長谷川祐子、第二回SANAA(妹島和世+西沢立衛)と東京都現代美術館)</p>
実績 (来場者数等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>1968年より開催</li> <li>参考～都民芸術フェスティバル等平成21年度入場者数:71,126人、平成22年度:78,111人 (2011年実施の公益財団法人東京都歴史文化財団監査報告より)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2002年より開催</li> <li>東京都生活文化局文化振興部文化事業課より毎年報告書を公表。2011年の来場者数は3都市(台北、東京、ソウル)合計で1,425人</li> </ul>	<p>延べ70万人</p>	<p>報告書に動員数記載なし</p>
評価の視点	芸術性	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術・芸能の諸領域を1つのフェスティバルとして集約</li> <li>各領域を代表するアーティストの競演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアにおける新しい舞台芸術の創造、発信</li> <li>世界で活躍できるアーティストを育成するプラットフォーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大物から若手まで様々なアーティストを迎える</li> <li>作品展示、パフォーマンス、ライブを一晚に一気に開催する、まさにアートの「夜の」祝祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャンルを代表する人材と共同企画することにより、アートの中に収まらない企画を実現出来ている</li> </ul>
	観客の参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>チケットを廉価にすることで幅広い層をターゲット</li> <li>東京都歴史文化財団の運営する施設を中心に、多摩地域の会場なども活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外のプレゼンター等、関係者のネットワーク構築</li> <li>広くアジアで活躍することを視野に入れている若手の集う場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町中が観客で埋まる程の動員で、初年度より、年々注目は高まっている</li> <li>若者を中心に、観客ジャンルが幅広い</li> </ul>	<p>企画者の知名度故、観客層はとても幅広い</p>
	国内への影響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>きわめて長い歴史をもつ、公演の質の担保</li> <li>都内に拠点を置く芸術・芸能の諸団体の多彩さや充実度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造的人材の育成</li> <li>人材交流の場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手作家にとっては、膨大な人数に作品を観てもらえるチャンスとなる</li> <li>大御所と若手、両方を並べることで現代のアートシーンのひとつのストリームを提示する</li> </ul>	<p>アグレッシブな企画 フェスティバル感はほとんどなく、公の美術館のアンニアル企画展のひとつとして捉えられやすい</p>
	海外への影響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>都民に対する多様な芸術文化の普及、振興が主目的だが、海外からの旅行者や移住者も伝統芸能や民俗芸能を身近に触れることができる</li> <li>公式サイトは日本語のみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア諸国との文化交流の促進</li> <li>フェスティバル参加都市の確保、拡大</li> <li>国際共同制作への積極的な姿勢</li> <li>公式サイトは完全日英バイリンガル</li> </ul>	<p>海外からのゲストアーティストは少ないが、日本のアーティストを一気に観る機会として今後はキュレーター等の招聘も可能ではないか。サイトは完全日英、Facebookも一部英語あり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の人気アーティストの作品も展示</li> <li>サイトは英語部分は概要部分等のみ</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>都民への招待券のプレゼント</li> <li>無料あるいは廉価な入場料で、都民に幅広く芸術鑑賞の機会を提供するというコンセプトは非常に明確</li> <li>芸術的にはフェスティバル全体に共通するテーマがある訳ではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加費:無料(予約制)</li> <li>本フェスティバルによって生まれる作品がおもしろいと認知されるまでにはまだ時間が必要だが、質のよい作品を発表し続けることで世界への発信を高めていくことが課題(2011年報告書より)</li> </ul>	<p>無料(一部の美術館企画展およびプログラムは有料) スタンプラリーでグッズプレゼント</p>	<p>無料のライブやシンポジウムを多数開催</p>

		文化庁メディア芸術祭(メディア・映像)	恵比寿映像祭(映像)	東京フィルメックス(映画)	東京国際映画祭(映画)
開催概要	会期	2012年2月22日(水)～3月4日(日)	2012年2月10日(金)～2月26日(日)	2012年11月23日(金)～12月2日(日)	2012年10月20日(土)～10月28日(日)
	会場	国立新美術館 ほか、東京ミッドタウンのd-labo、メルセデス・ベンツ コネクション、ニコファーレ、TOHOシネマズ六本木ヒルズ	東京都写真美術館全フロア及び恵比寿ガーデンプレイス センター広場、ザ・ガーデンルーム、恵比寿周辺文化施設及びギャラリーほか	有楽町朝日ホールをメイン会場に、東劇、TOHOシネマズ 日劇、marunouchi cafe SEEK、有楽町朝日スクエアなど有楽町エリア	六本木ヒルズをメイン会場に、都内の各劇場及び施設・ホールを使用
	主催	文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁、国立新美術館)	東京都/東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)/日本経済新聞社	特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会	公益財団法人ユニジャパン(第25回東京国際映画祭実行委員会)
	共催		サッポロ不動産開発株式会社	朝日新聞社、J-WAVE、テレビ朝日、松竹、【字幕制作】東京都、アーツカウンシル東京準備機構・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団) (共催企画Talent Campus Tokyo 2012)東京都、アーツカウンシル東京準備機構・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団) (共催企画Talent Campus Tokyo 2012提携)ベルリン国際映画祭(ベルリン・タレント・キャンパス)	支援:文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業) 共催:経済産業省(マーケット部門)、東京都(コンペティション部門) 補助:財団法人JKA(競輪補助事業)
	協賛		オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム/オランダ王国大使館/モンドリアン財団/韓国国際交流財団/サッポロビール株式会社/東京都写真美術館支援会員		スペシャル・パートナー:トヨタ自動車株式会社 オフィシャル・パートナー:木下グループ 日本コカ・コーラ株式会社 キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社 協賛:ソニー株式会社/大和証券グループ/株式会社クレーク・アンド・リバー社/株式会社フェイス/株式会社ファンケル/森ビル株式会社/ソニーPCL株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社WOWOW/三井不動産株式会社 株式会社AOKIホールディングス/ヤマトホールディングス株式会社/ANA/松竹株式会社/東宝株式会社/東映株式会社/株式会社角川書店/日活株式会社/富士フィルム株式会社/TOHOシネマズ株式会社/一般社団法人映画演劇文化協会/株式会社ティー ワイ リミテッド
	助成			芸術文化振興基金、アーツカウンシル東京準備機構(公益財団法人東京都歴史文化財団)イスラエル大使館	
	後援		アメリカ大使館/カナダ大使館/タイ王国大使館/駐日韓国大使館 韓国文化院/J-WAVE 81.3FM		総務省/外務省/環境省/観光庁/港区/独立行政法人国際交流基金/独立行政法人日本貿易振興機構/東京国立近代美術館フィルムセンター/公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団/財団法人JKA/一般社団法人日本経済団体連合会/東京商工会議所/一般社団法人日本映画製作者連盟/一般社団法人映画産業団体連合会 一般社団法人外国映画輸入配給協会/モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)/全国興行生活衛生同業組合連合会/東京都興行生活衛生同業組合/特定非営利活動法人映像産業振興機構/一般社団法人日本映像ソフト協会/財団法人角川文化振興財団/一般財団法人デジタルコンテンツ協会/一般社団法人デジタルメディア協会
	事務局	文化庁メディア芸術祭事務局	東京都写真美術館	特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会	公益財団法人ユニジャパン(第25回東京国際映画祭実行委員会)

		文化庁メディア芸術祭(メディア・映像)	恵比寿映像祭(映像)	東京フィルメックス(映画)	東京国際映画祭(映画)
目的と概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア芸術の総合フェスティバル</li> <li>・アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰する</li> <li>・受賞作品の鑑賞機会を提供</li> <li>・海外・国内展開をはじめ、創作活動支援や連携推進までを含む関連事業を通じ、次代を見据えたフェスティバルを目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京の文化発信の大きな柱の一つとしてスタートし、今年は4回目となる映像の祭典</li> <li>・東京都文化発信プロジェクトの中では、世界の主要都市と競い合える「芸術文化の創造発信」を目指す事業としての位置づけで、「フェスティバル分野では、国内外の認知度が高まった事業」として認識。事業のねらいは、H22年度は「映像分野における創造、発信、および継承活動の活性化を促進し、東京の優れた映像芸術文化を国内外に発信することを通じて、文化創造・発信拠点としての東京都および東京都写真美術館の存在感をアピールすること。</li> <li>・毎年ごとの映像文化の最先端を扱い、映像の文化とその表現の進化を、古典的様式の作品とともに一堂に見せ、参加者の感覚を刺激し、発展させること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際映画祭の真価を追求し、東京と世界から必要とされる機能を担う。</li> <li>・東京という都市の魅力をより活かすイベントを展開</li> <li>・独創的な作品をアジアを中心とした世界から集めた国際映画祭を主催する。</li> <li>・掲げるテーマは、「未来・創造」「運動・発信」「教育・交流」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本唯一の国際映画製作者連盟(注1)公認の国際映画祭として、日本の映画産業、文化振興に大きな足跡を残してきた。</li> <li>・世界の2600有余の国際映画祭の頂点に立つカンヌ・ヴェネチア、ベルリンに比肩し、世界四大映画祭と評価される国際映画祭を目指す。</li> <li>・セミナー、シンポジウムやワークショップなどのフォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルとして人と映画、ビジネスのリンケージを実施します。</li> <li>・東京国際映画祭と同時期に、TIFFCOM(マーケット)も開催され、国内外の映画のバイヤーやプログラマーの来場も多い</li> </ul>
プログラム		<ul style="list-style-type: none"> <li>・受賞作品を中心に幅広いジャンルのメディア芸術作品を展示</li> <li>・複数のサテライト会場では、アニメーション作品や映像作品の特別プログラムの上映会やマンガ部門のすべての作品を閲覧できるマンガライブラリーを開設</li> <li>・パフォーマンス作品の公演や受賞者によるプレゼンテーション、審査委員やゲストのシンポジウム等さまざまなイベントを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回掲げるテーマでキュレーションされた、映像を巡る多様な表現を展示、オフサイト展示、上映、ライブなど様々な形式で紹介する</li> <li>・第4回のテーマは「映像のフィジカル」</li> <li>・シンポジウム、レクチャー、トークなどを開催し、国内外から集まった映像の作り手・受け手・担い手が、交流する機会も多数提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新進作家を紹介し、優れた作品を顕彰してバックアップするコンペティション、特別招待、イスラエル映画傑作選、特集上映『木下恵介生誕100年祭』など、様々な上映プログラム。</li> <li>・関連機関との共催・協力も多い。その他セミナー、トーク、ワークショップなども開催。</li> <li>・ベルリン国際映画祭で行われているタレントキャンパスも2011年より開催し、若手の人材育成にも取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな才能から成熟した監督までを対象に、世界中から厳選されたプレミア作品群の「コンペティション」、日本未公開のエンタテインメント作品「特別招待作品」、TIFF最多の作品数と観客数を誇る「アジアの風」、バラエティーに富んだ日本作品を海外へ発信する「日本映画・ある視点」、特集上映「natural TIFF」などの様々なジャンルの作品を9日間で一挙に上映。</li> <li>・内外ゲストによるグリーンカーペットやイベントなど、映画ファンだけでなく観光客や大勢の人々が楽しめる多彩なイベントを実施。</li> </ul>
セレクション		各部門4～5名の審査員(アーティスト、キュレーター、批評家、編集者などの識者)で選定。	第1回より、プログラムディレクターを岡村恵子(東京都写真美術館学芸員、68年生)が務めている。毎年テーマを掲げ、そのテーマに沿った作品をキュレーションしている。	第1回より、プログラムディレクターを市山尚三(映画プロデューサー、63年生)テーマや方針を設けることなく作品の完成度だけを基準に上映作品を決定している。	チェアマンを各映画会社が順番に務め、プログラミングディレクターも数年で交代をしている。現在は矢田部吉彦(66年生)。審査員は国内外の著名な映画関係者が務めている。
実績(来場者数等)		1997年からはじまり、新国立劇場小劇場、草月会館、東京都写真美術館を経て、2007年より国立新美術館を会場にしている。2012年は世界57の国と地域から2,714作品の応募。	2008年のプレイベントを経て、2009年より毎年2月に開催。東京都写真美術館を会場にしている。2012年には100名を超えるアーティストの作品を展示・上映。	2000年12月からはじまり、2012年で13回目を迎えた。2012年は全40作品、56回上映。	1985年より開催。会場は以前は渋谷だったが、近年六本木に会場を移した。2011年の来場者数は118,038人
評価の視点	芸術性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賞の意味が大きい</li> <li>・賞(金)を与えることで、次回作への支援にもつながる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外のクラシック・前衛など幅広いアーティストの作品を紹介</li> <li>・オープニング時など、多数のアーティスト・関係者が一同に会い、出会いと交流の場となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術性の高い映画を、アジアを中心に世界中から集めて上映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な華やかなゲスト、審査員</li> <li>・作品は比較的メジャーな作品のジャパンプレミアが多い</li> </ul>
	観客の参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外のアーティスト</li> <li>・アート関係者にとっては、新人を発掘するチャンスにもなる</li> <li>・その他の観客については不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の映画・メディアアート・美術関係者が集まる</li> <li>・上映やシンポジウムでは、作品・テーマごとに観客が異なる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般観客に加え、関係者(配給)の来場も多い</li> <li>・トークなど、多様な切り口を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品により、さまざまな層が来場</li> </ul>
	国内への影響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受賞により、エンターテインメント作品であっても、作品の芸術的な価値が明確になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「映像」をキーワードにジャンル横断的な企画を展開し、若手の作品も多数紹介している。</li> <li>・映像以外にも、ダンス公演などでも積極的に告知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンプレミアを多くプログラミングしているため、関係者の注目は高い</li> <li>・新作のプレミア、プレビューとしての機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大作のジャパンプレミアが多いので、反応に対する注目は高い</li> <li>・「アジアの風」は、良質なアジア映画をまとめて上映する</li> </ul>
	海外への影響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に海外での知名度はあり、海外からの応募も多い</li> <li>・募集チラシやポスターなどは様々なところで見かける</li> <li>・HPはバイリンガル、部分的に中国語と韓国語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外のプログラマーによるプログラムもあり、ゲストとしても招聘する</li> <li>・アーティストや組織とのネットワーク、またアーティスト同士のネットワークが構築されている</li> <li>・海外から、映像祭だけを見に来るような来場(観客)は少ない</li> <li>・HPの英語がほとんどない。カタログは完全バイリンガル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの関係の蓄積により、フィルメックスをジャパンプレミアに選ぶ作家もいる</li> <li>・HPやカタログなどは日英バイリンガル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の映画関係者が集まり情報交換をする場となっている</li> <li>・併設マーケットTIFFCOMでは、企画の売買が行われる</li> <li>・HPやカタログなどは日英バイリンガル</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場アクセス:良い</li> <li>・チケット料金:無料</li> <li>・コンセプト:幅広い意味での「メディア」の芸術性を支援するという目的は達成されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場アクセス:良い</li> <li>・チケット料金:無料、プログラムにより有料</li> <li>・コンセプト:毎年テーマを掲げて分かりやすい反面、ジャンルを横断するため観客に伝わりにくい部分もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場アクセス:良い</li> <li>・有楽町エリアに定着し、他機関との連携も多数</li> <li>・映画ファン内での周知度は初回より高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場アクセス:良い</li> <li>・学生割引を実施</li> <li>・エコロジーをテーマにしたプログラムも開催</li> <li>・海外メディアや関係者の来場も多い</li> </ul>	

		イメージフォーラムフェスティバル	Music Weeks in Tokyo (音楽)		
開催概要	会期	2012年4月29日(日)～5月6日(日)	【スーパー・コーラス・トーキョー】 2011年10月 6日(木)および10月10日(月)	【プレミアムコンサート】 ①2011年5月、11月(各3日間) ②2011年7月、8月(各3日間)、2012年2月24日(木)、3月4日(金)	【東京音楽アカデミー】 ・マスタークラス:2011年12月～2012年2月(計8日) ・ファイナル・コンサート:2012年3月3日(木)
	会場	新宿パークタワーホール、シアターイメージフォーラム	東京オペラシティコンサートホール、新国立劇場・オペラパレス	①多摩地域・島しょ地域(6会場) ②都内公立文化施設(8会場)	東京文化会館 小ホールほか
	主催	イメージフォーラム	東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、ミュージック・ウィークス・イン・トーキョー実行委員会(構成団体:公益財団法人東京都交響楽団、(社)日本オーケストラ連盟、(社)日本クラシック音楽事業協会、(社)全日本合唱連盟)		
	共催				
	協賛				
	助成				
	後援				
	特別協力		東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)		東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
	その他		広報協力:朝日新聞社 協力:上野学園石橋メモリアルホール		
	事務局		(2011年度)ミュージック・ウィークス・イン・トーキョー実行委員会事務局		

		イメージフォーラムフェスティバル	Music Weeks in Tokyo (音楽)		
目的と概要		<p>フィルム&amp;ビデオ・フェスティバルでは、日本国内、海外のあたらしい映像アートの意欲的で実験的な新作、話題作を毎年上映してきました。東京を皮切りに、全国へとフェスティバルの作品が巡回。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京の音楽文化の活性化、創造力の向上を目指して開催される、音楽フェスティバル</li> <li>・東京が世界有数の合唱都市であることに着目し、“声”をメインテーマとして、「参加性」と「創造性」を柱とした様々な事業を一体的に展開</li> <li>・東京の芸術文化の創造環境に刺激を与え、「芸術文化都市・東京」から世界に向けた創造と発信を推進</li> <li>・オーディション等によって結成される一流のプロ合唱団『スーパー・コーラス・トーキョー』が核となり、世界的な合唱指揮者ロベルト・ガッピアーニの指導のもと、特別公演を実施</li> <li>・東京の音楽大使である東京都交響楽団は、都内各地で参加性と創造性を盛り込んだクラシックコンサートである『プレミアムコンサート』を開催、スーパー・コーラス・トーキョーとのコラボレーションや、クラシック音楽を身近に“体験”しながら親しむ企画を展開</li> <li>・次世代を担う音楽人材を育成するため『東京音楽アカデミー』を開講</li> <li>・こうした多様な事業展開を通じて、東京の音楽文化の創造環境に刺激を与え、「芸術文化都市・東京」から世界に向けた創造と発信を推進</li> </ul> <p>(以上、公式サイトより要約・抜粋)</p>		
プログラム		<p>日本国内からの招待作品部門『ニューフィルム・ジャパン』では、日本のアートアニメーションや個人制作による先鋭的な表現を紹介。海外招待作品部門『ニューフィルム・インターナショナル』では、オーストリアアヴァンギャルド映画の60年を追ったプログラムや、スイスのアンダーグラウンド映画祭『ローザンヌ・アンダーグラウンド・フィルム・アンド・ミュージック・フェスティバル』との提携企画などを展開する。また、一般公募部門『ジャパン・トゥモロウ』では、441作品の応募の中から選ばれた20作品を上映。5月6日の授賞式で入賞5作品と観客賞が発表される。今回は計35プログラム、206作品の長編、短編作品上映とインスタレーション展示。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロ合唱団「スーパー・コーラス・トーキョー」がロベルト・ガッピアーニによる指導のもと、プレミアムコンサート(右項参照)と特別公演に出演</li> <li>・関連企画として、「ロベルト・ガッピアーニ 指揮法ワークショップ」のほか、アマチュアの合唱団による「まちなかコンサート」の実施</li> <li>・「東京都合唱コンクール入賞団体による、精鋭たちのコンサート」(有料)のほか、江戸東京たてもの園などで無料公演を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都交響楽団による、“声”という企画趣旨を活かした無料のクラシックコンサートを展開</li> <li>・クラシック音楽を身近に“体験”しながら親しむ機会を提供</li> <li>・室内楽編成のコンサート／観客参加型企画／オペラの合唱曲等を中心としたオペラの魅力を伝えるコンサート／東京音楽アカデミー特別賞受賞者による公演</li> <li>・スーパー・コーラス・トーキョーが一部公演に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新進・若手アーティストが自らの力量を問い、認められる機会を提供する一環</li> <li>・都内文化施設などと連携・協力して、恵まれた音響の中で国際的なアーティストの指導を受けることができる「マスタークラス」を開講</li> <li>・指導を受ける機会が得難いアーティストによる個人レッスン</li> <li>・オープニング・シンポジウム、ファイナル・コンサートの他、イベント事業として、シンポジウム等を行う</li> </ul>
セレクション		フェスティバルディレクター、プログラミングディレクター共にイメージフォーラムスタッフが務める。審査員は映画・アート関係の識者。			
実績 (来場者数等)		1987年の第1回目の開催以来、今年で通算26回目	【参考:2010年度】のべ約3,648人		
評価の視点	芸術性	最先端のアニメーションや実験映画など、美術と映画の中間に位置する作品をも積極的に上映。海外の映画組織との連携も多く、作品の紹介などが行われている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現の根源である「声」にフォーカス</li> <li>・世界の合唱シーンの要職を担ってきた合唱界の巨匠ロベルト・ガッピアーニを指導者に招聘</li> <li>・オーケストラと合唱のコラボレーション</li> </ul>		
	観客の参加	イメージフォーラムのスクールの卒業生なども多数参加 ・大きな作品はないが、ここで配給が付く小品は多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アマチュア合唱団との連携</li> <li>・多摩地域や島しょ地域を含む、都内のさまざまなエリアの公立文化施設の活用</li> </ul>		
	国内への影響力	全国を巡回するので、延べ人数は多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本にプロの合唱団が少ない中、音楽祭に伴う新たな合唱団を東京に結成</li> <li>・オーディションを通じ、若手に対して世界へ通ずる要求レベルを提示</li> </ul>		
	海外への影響力	組織間の関係性により、互いの作品の交換などもある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京が世界有数の合唱都市であることをアピールする意図</li> <li>・東京文化発信プロジェクトの公式サイト内のみ英語による解説あり(音楽祭の公式サイトは日本語のみ)</li> </ul>		
	その他	マイナーなジャンルなので、観客層は偏る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレミアムコンサートやまちなかコンサートは無料または招待</li> <li>・2010年度の事業評価では広報と、世界への発信力の点で課題</li> </ul>		

参照URL

<http://www.bh-project.jp/festival/jpn/event/data/mwit2011><http://www.mwit.jp/>

		ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 「熱狂の日」音楽祭(音楽)	東京・春・音楽祭 —東京のオペラの森—(音楽)	多摩川流域郷土芸能フェスティバル (民俗芸能)	三茶de大道芸
開催概要	会期	2012年4月27日(金)～5月5日(土) ・前夜祭:5月2日(水) ・コア期間:5月3日(木)～5月5日(土)	2012年3月16日(水)～4月8日(金)	2012年12月2日(日)	2012/10/20～21
	会場	(東京丸の内エリア) ・東京国際フォーラム ・よみうりホール	・上野エリア【ホール】 東京文化会館、上野学園 石橋メモリアルホール、旧東京音楽 学校奏楽堂、水上音楽堂(上野恩賜公園野外ステージ) ・上野エリア【公立施設】 国立科学博物館、東京国立博物館、国立西洋美術館、上野の 森美術館、国際子ども図書館	狛江エコルマホール	三軒茶屋・キャロットタワー周辺、世田谷パブリックシア ター
	主催	東京国際フォーラム	東京・春・音楽祭実行委員会 ※一部公演のみ該当 有限責任事業組合ことばの社/Sony Music Foundation(財団 法人ソニー音楽芸術振興会)/社団法人日本オーケストラ連 盟、首都圏オーケストラの日実行委員会	東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史 文化財団)、東京発・伝統WA感動実行委員会(構成団体:社団法 人日本芸能実演家団体協議会、独立行政法人日本芸術文化振 興会、NHKエンタープライズ)	世田谷アートタウン2012実行委員会 公益財団法人せた がや文化財団 世田谷文化生活情報センター
	共催	東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史 文化財団)	※一部公演のみ該当 日本経済新聞社、国立科学博物館、東京国立博物館、東京都 美術館、上野学園石橋メモリアルホール	多摩川流域郷土芸能フェスティバル実行委員会、狛江市	東京都・ヘブンアーティスト運営実行委員会
	協賛	(特別協賛)セブン-イレブン・ジャパン、大和ハウス工業、日清製 粉グループ本社、東日本旅客鉄道 (協賛)約100社		千代田第一工業株式会社、株式会社スペース・ブラン	東邦ホールディングス株式会社
	助成	公益財団法人ロームミュージックファンデーション			平成24年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信 事業
	後援	駐日欧州連合代表部、在日ロシア連邦大使館 ロシア連邦文化 協力庁、NPO法人日本・ロシア協会、外務省、文化庁、観光庁、 国際交流基金、日本政府観光局(JNTO)、社団法人日本観光振 興協会、東京都教育委員会、千代田区、千代田区教育委員会、 心の東京革命推進協議会(青少年育成協会)、公益財団法人東 京観光財団、千代田区観光協会、在日フランス商工会議所、社 団法人日本経済団体連合会、東京商工会議所、大手町・丸の 内・有楽町地区再開発計画推進協議会、NPO法人大丸有エリア マネジメント協会、エコツェリア協会、東京私立初等学校協会、 一般財団法人東京私立中学高等学校協会、東京都私立幼稚園 連合会、社団法人東京都専修学校各種学校協会、社団法人日 本クラシック音楽事業協会	※一部公演のみ該当 日本ワーグナー協会、フランス大使館、アルゼンチン共和国大 使館、公益財団法人台東区芸術文化財団、Sony Music Foundation(財団法人ソニー音楽芸術振興会)		世田谷区・世田谷区商店街連合会・世田谷区商店街振 興組合連合会
	特別協力	読売新聞社、三菱地所、フランス大使館、フランス外務省、フラン ス文化・通信省、ナント市	※一部公演のみ該当 上野学園石橋メモリアルホール		
	その他	企画制作:CREA/KAJIMOTO アドバイザー・コミッティー:ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン熱 狂の日音楽祭実行委員会 参加事業:丸の内元気文化プロジェクト			
事務局	実行委員会			世田谷アートタウン2012実行委員会	

		ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 「熱狂の日」音楽祭(音楽)	東京・春・音楽祭 —東京のオペラの森—(音楽)	多摩川流域郷土芸能フェスティバル (民俗芸能)	三茶de大道芸
目的と概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ラ・フォル・ジュルネ」はフランス・ナントで1995年に誕生した音楽祭で、クラシック音楽の常識を覆すユニークなコンセプトをもつ</li> <li>毎年テーマとなる作曲家またはジャンルを設定。若手からベテランまで多彩な演奏者</li> <li>アーティストック・ディレクター、ルネ・マルタンの「一流の演奏を低料金で提供することによって、明日のクラシック音楽を支える新しい聴衆を開拓したい」という考えのもと、入場料は低価格で、キッズプログラムも充実（以上、公式サイトより要約・抜粋）</li> <li>2000年以降フランス国外でも開催。2005年から東京で、2008年以降は金沢、新潟、びわ湖、鳥栖でも開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新演出のオペラの上演を中心とする「東京のオペラの森」として、2005年に開始</li> <li>その後、「桜の季節に、上野で音楽祭を」という当初の思いを実現するために、現在の名称となり、桜の蕾がほころぶ時から桜吹雪となる季節にかけて、上野のさまざまな文化施設で、たくさんさんの演奏会を催す音楽祭となった。</li> <li>「少しずつでも、年を経るごとに、この音楽祭の輪を広げながら、東京・上野に新しい歴史をつくらう」という趣旨のもと実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東京文化発信プロジェクト」の一環である「東京発・伝統WA感動」のうちの一つ</li> <li>「東京発・伝統WA感動」の事業のねらいは「長い歴史の中で育まれ、江戸・東京で受け継がれ発展させてきた伝統的な邦楽、舞踊、演劇、話芸などを若い層を中心に広く普及させるとともに、新しい創造を促し日本独自の文化として世界に発信していく」こと</li> <li>古来より日本人の営みを支えて来た多摩川流域に今も残る、個性豊かな芸能文化である、獅子舞や和太鼓、音頭やお囃子などの芸能を一挙上演</li> <li>(以上、公式サイトより要約・抜粋)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三軒茶屋の街を劇場にしよう」と、地元商店街と世田谷文化生活情報センターが一体となって1997年に始まり、今では秋恒例のフェスティバルとして定着。</li> <li>パフォーマー、地域の人々、ボランティアスタッフ、そして来場者が一体となって楽しめるフェスティバル。それが世田谷アートタウン「三茶de大道芸」。</li> </ul>
プログラム		<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年のテーマ: サクル・リュス</li> <li>～19世紀から現代までの激動のロシアで革新的でスピリチュアルな音楽潮流を生み出した作曲家たちを積極的に紹介、ロシア音楽の変遷をたどった</li> <li>特徴: 1公演約45分／朝から晩まで多彩なプログラム／国内外の一流の演奏が低料金／無料イベントの充実／0歳児からクラシックファンまで、幅広い層が対象／街全体が音楽であふれた「お祭り」ムード一色になる</li> <li>スペシャル・コンサートとして、聴きどころを凝縮したコンサートや中身は当日発表のコンサート、暗闇の中で演奏を聴き最後に出演者を明かす企画やロシア音楽史上に残る歴史的コンサートを再現する企画などがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京文化会館での「東京春祭ワグナー・シリーズ」をはじめとして、東京都交響楽団によるオーケストラ公演、国内外で活躍しているアーティストによる室内楽公演が上野エリアのコンサートホールで開催される</li> <li>上野公園内の美術館や博物館などでは「ミュージアム・コンサート」など、多彩なプログラムを実施。例年「東京春祭 歌曲シリーズ」や「東京春祭 マラソン・コンサート」、「東京春祭 for Kids」といったさまざまな企画がある。</li> <li>「桜の街の音楽会」として無料コンサートを上野エリアで多数開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩川流域に伝わるさまざまな郷土芸能が一堂に会す</li> <li>2012年の出演団体</li> <li>小永田神代神楽保存会: 小永田神楽</li> <li>多摩区文化協会: 多摩川音頭・多摩川梨もぎ音頭</li> <li>丹波山村文化保存会: ささら獅子舞</li> <li>武蔵国府太鼓翔駒会: 和太鼓</li> <li>境獅子舞連中: 白髭神社の獅子舞</li> <li>岩戸はやし保存会: おはやし</li> <li>物産展や抽選会など関連イベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各会場でパントマイムやジャグリング、ファイアーショーにアクロバットなど世界各国のアーティストたち芸、各商店街の模擬店などで賑わう二日間のプログラム。移動しながら芸を見せる“大道移動芸”「ウォーキングアクト」をはじめ様々なアーティストたち100組による小売店が烏山川緑道に立ち並ぶ「アート楽市」。世田谷通りアーケード街では有名占い師が勢ぞろいした「占いストリート」。街の達人による「似顔絵コーナー」。その他「あめ細工」などで縁日など。</li> </ul>
セレクション		<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストック・ディレクター: ルネ・マルタン(1950年、フランス・ナント近郊生まれ。ナント市に芸術研究制作センター[CREA]を創設し、1979年に同センターの芸術監督就任以来、数多くの音楽祭やコンサートをプロデュース)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員長: 鈴木幸一(1972年早稲田大学卒業。1994年から株式会社インターネットイニシアティブ代表取締役社長に就任)</li> <li>2005～2008年には小澤征爾が音楽監督を務め、2009年のリニエールの際は音楽祭アドバイザーとしてイオアン・ホルンダー(ウィーン国立歌劇場総監督)が協力</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「三茶de大道芸」プロデューサー橋本隆雄(69) 様々な大道芸フェスに関わる第一人者。2002年より東京都ペンアーティスト審査員</li> </ul>
実績 (来場者数等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>【2012年度】</li> <li>・出演者数: 2,097人(うち海外アーティスト703人) ・公演回数: 351公演(回)</li> <li>・チケット販売数(有料公演): 122,610枚</li> <li>・来場者数: 220,774人 ・総来場者数: のべ 約460,000人</li> <li>・総合経済波及効果: 8,114(百万円)</li> <li>【2005～2012年までの実績】</li> <li>・チケット総販売数: 約1,000,000枚 ・総出演者数: 約12,000人</li> <li>・総公演数: 約2,600回</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【参考: 2009年度】東京発・伝統WA感動の来場者数: のべ 6,983人(邦楽3,636人、能と邦楽812人、天台声明1,520人、民俗芸能565人、民俗芸能450人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二日間で17万人(2012年度ホームページより)</li> </ul>
評価の視点	芸術性	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年テーマとなる作曲家やジャンルを設定、2012年は世界9都市共通テーマ</li> <li>多彩なプログラムと、多岐にわたる演奏者</li> <li>音大生、キッズ、ユースといった若い世代を応援する企画多数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワグナー・シリーズを中核</li> <li>パイロイト音楽祭等でも活躍する指揮者や歌手陣の招聘、合唱の総力を結集</li> <li>さまざまな編成の室内楽や器楽リサイタル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多摩川流域に集積する文化資源、郷土芸能の活用</li> <li>舞や神楽、お囃子など多彩な種目、表現</li> <li>伝統芸能の魅力の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多種多様、ハイレベルなものから、コミュニケーション重視のものまで</li> </ul>
	観客の参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京・丸の内エリアの音楽祭としての充実度、働く方々を巻き込む企画</li> <li>年齢を問わず0歳から楽しめる</li> <li>ボランティアを一般公募</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上野公園周辺のさまざまな施設を活用</li> <li>上野エリアの春の祭りとして定着を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体間の交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアが当日スタッフだけではなく事前の街の装飾や、ワークショップ企画などに主体的に参加。</li> <li>観客とアーティストの双方向のコミュニケーション</li> </ul>
	国内への影響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールデンウィークの丸の内エリアでの音楽祭として定着</li> <li>国内における開催都市の拡大</li> <li>クラシック音楽に散在顧客がいることを実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豪華キャストによる大規模オペラ作品の上演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗芸能の保存、継承、普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アートとしての大道芸の普及 ・地域活性化</li> </ul>
	海外への影響力	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外から多くのアーティストが出演</li> <li>世界規模で広がる音楽祭の一つ</li> <li>東京文化発信プロジェクトの公式サイト内のみ英語に概要あり。音楽祭の公式サイトは日本語のみ、ただしフランスでのラ・フォル・ジュルネ(仏・英)のサイトへリンクあり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元来は小澤征爾を中心に、ウィーン国立歌劇場、国立パリオペラ座、フィレンツェ歌劇場などとの、新演出のオペラ共同制作</li> <li>東京でのワールド・ブルミエ公演を核としていた</li> <li>音楽祭公式サイトは日本語・英語対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗芸能の魅力の発信を意図</li> <li>東京文化発信プロジェクトの公式サイト内のみ英語に概要あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイス、アメリカ、カナダ、フランス、中国などからゲストアーティストを招聘 ・サイト(日) ・海外からの応募はほとんどない</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料イベント多数、チケットは廉価</li> <li>プログラムだけでなく、音楽祭を楽しむさまざまなプランを提示する、コンテンツの豊かな公式サイト</li> <li>オフィシャルグッズや関連書籍、CD等もさかんに販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場が上野に集中しているのでアクセスが良い</li> <li>年間を通じてメルマガを発信、さかんに広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料</li> <li>多摩川流域以外の都民にとっては会場のアクセスが良くない</li> <li>2009年度の事業評価では、広報の工夫、ならびに普及目的か専門家からの評価を得るのか目的に応じたプログラムの工夫と配慮が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料 ・商店街の積極的な参加</li> <li>せたがや文化財団のアートタウン企画の一環</li> </ul>

参照URL <http://www.lfi.jp/lfi/2012/?id=header><http://www.tokyo-harusai.com/about/index.html><http://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/36.51682.82.1681.html><http://www.setagaya-ac.or.jp/arttown/>[http://www.lfi.jp/lfi/2013/about/article\\_06.html?id=nav\\_l#content\\_08](http://www.lfi.jp/lfi/2013/about/article_06.html?id=nav_l#content_08)<http://www.dento-wa.jp/schedule/schedule08.html>